

農業研修生海外派遣事業説明会を開催しました

8月28日、農業研修生海外派遣事業の紹介のため、岐阜県国際農業者交流会の水谷会長と大野さん、横田さんの3名が来校され、1学年生を対象に体験談を交えて説明をしていただきました。3名は、アメリカでの海外農業研修を経験し、帰国後研修、就職等経て現在はそれぞれ鉢花、いちご、しいたけを生産しておられる農業経営者です。

この研修プログラムには、農業の先進国である6つの国（アメリカ、デンマーク、ドイツ、スイス、オランダ、オーストラリア）に長期滞在できるコースがあること、毎年全国から70名ほどがこの研修に参加し、今までに15,000人もこの研修に参加していること、近年非農家出身の参加者が多く、また農業次世代人材投資事業を活用してこの研修に参加することもできるなどの情報を教えていただきました。

海外での研修の体験談としては、現地の農場に滞在するので、農業の技術力はもちろん、外国語や外国人とのコミュニケーションの力が身につく。そして何より、自分の力で異国で努力することで、強い自信が生まれ、また自分が日本人であることを強く認識し、日本について考え、世界とのつながりを感じる毎日になるといった内容のお話がありました。

現在、農業経営者として活躍している3名の方。「海外研修で、つらい中でも頑張った経験が今の自分を作っている」という言葉や、「経営する力は、継続させる力。始めることはできても続けることは難しい」といった言葉が1学年生の心にも響いたと思います。

<3名のお話を聴く1学年生の様子>

